

「江戸庶民の旅と歩行」講座

9月5日（金）、東洋大学の谷釜 尋徳（たにがま ひろのり）教授を庄和南公民館にお招きして「江戸庶民の旅と歩行」講座を開催しました。

市民公開の講座として市民大学の卒業生と学生及び一般市民を含め100名以上の受講生が、大雨の中集まりました。わかり易い映写内容と説明により、受講者は味わい深く楽しい時間を持ちました。

市民大学23期の飛鳥馬健次さんより講義の感想を下記に投稿していただきました。是非、読んで「江戸庶民の旅と歩行」を身近に感じてください。



私は、昨年、自由課題で富士講（ふじこう）について調べました。今年は芭蕉の奥の細道について調べています。いずれの場合も「旅」が重要な要素であります。しかし、旅の実態はなかなかわかりませんでした。

〔令和7年 春日部市庄和地区市民大学〕

江戸庶民の旅と歩行

東洋大学 谷釜尋徳

70枚のスライドを使っ
ての講義でした。

今日は谷釜先生の緻密な調査、研究のお話を伺い疑問の多くを解明することができました。とりわけ次の点について学ばせていただきました。

伊勢参り(観光旅行)

江戸時代、ほぼ60年周期で伊勢参りが爆発的に流行
全国各地から、大勢の庶民が伊勢に集結(お陰参り)

文政13(1830)年のお陰参りでは、当時の日本の総人口のうち、
6人に1人がお伊勢参りをした計算になる(伊勢船番所の帳簿より)

基本的な移動手段 ⇒ 歩き！

- 駕籠 → 高額で酔いやすい
- 馬 → 料金もかかるし歩く速度と変わらない



1日に35Kmくらい歩いたということは、春日部から都心までの距離である。

それもお伊勢参りでは60日以上歩いたと言うのでかなりの負担であったことが理解できました。

旅人の平均的な歩行距離

約100編の旅日記から計算すると・・・

1日平均： ⑧約35km, ⑨約30km
短い日： 約20km
長い日： 約60km～

江戸時代の旅人はこの距離を2～3ヶ月歩き続けた！

当時は、“移動＝歩く”という生活習慣
明治以降、交通手段の発達により日本人は徐々に歩かなくなった

60日以上も仕事を休んで旅に出られる人は相当なお金持ちでないと旅に出られないのではと思いました。先生の資料によれば1日2万円位になるが、交通費をゼロとすれば、宿泊と食費でそれ位かと納得しました。

旅人の履物



草履(ゾリ)ではなく、草鞋(ワラジ)を着用



- ✓ヒモで縛り付け、かかとが固定されるので歩きやすい！
- ✓長距離の歩行に最適な履物！

草鞋（わらじ）は私も竹皮、布等で作りましたが、旅をするには草鞋が丈夫で履きやすかったと言う。当時の人の実感がまだよく理解できませんでしたが、1足で1日位しかもたなかったことはよく理解できました。

江戸時代の街道の交通マナー

旅人がすれ違う時に、避けるのはどっち？

右側通行？ 左側通行？

正解は・・・

左側通行

道を歩くマナーがあったのは、日本人らしくよく理解できました。江戸時代の旅も15人位の団体旅行が多かったということは、今の日本人の旅姿と似ていてほほえましかった。

他にも、江戸時代の街道には交通マナーがあった



江戸時代の旅人は、
何人くらいで旅をした？

＝平均で15人程度
(多い時には30人以上！)

みんなが好き勝手に歩くと、“渋滞”してしまう

そこで・・・

本日は谷釜先生のお話から多くのことを学ばせていただきました。今後の自由課題の研究に役立てたいと思います。

ありがとうございました。心からお礼申し上げます。